

# ごみ組成分析調査結果について

## (1) 調査概要

### 【家庭系ごみ】

	8月	9月
試料採取地域	城西地区（南城西二丁目）	一大地区（駅前町～大町3丁目）
集積所の形態	ステーション方式	毎戸方式
想定条件	分別等の意識が高いと思われる 住居地域	商業地域付近の住宅
採取量	204.5kg（集積所2ヶ所分）	201.1kg
収集時間	18分	44分

### 【事業系ごみ】

	8月	9月
調査場所	弘前地区環境整備センター （弘前市大字町田字筒井6-2）	南部清掃工場 （弘前市大字小金崎字川原田54）
採取量	210.5kg	202.6kg

## (2) 調査結果

### 【家庭系ごみ】

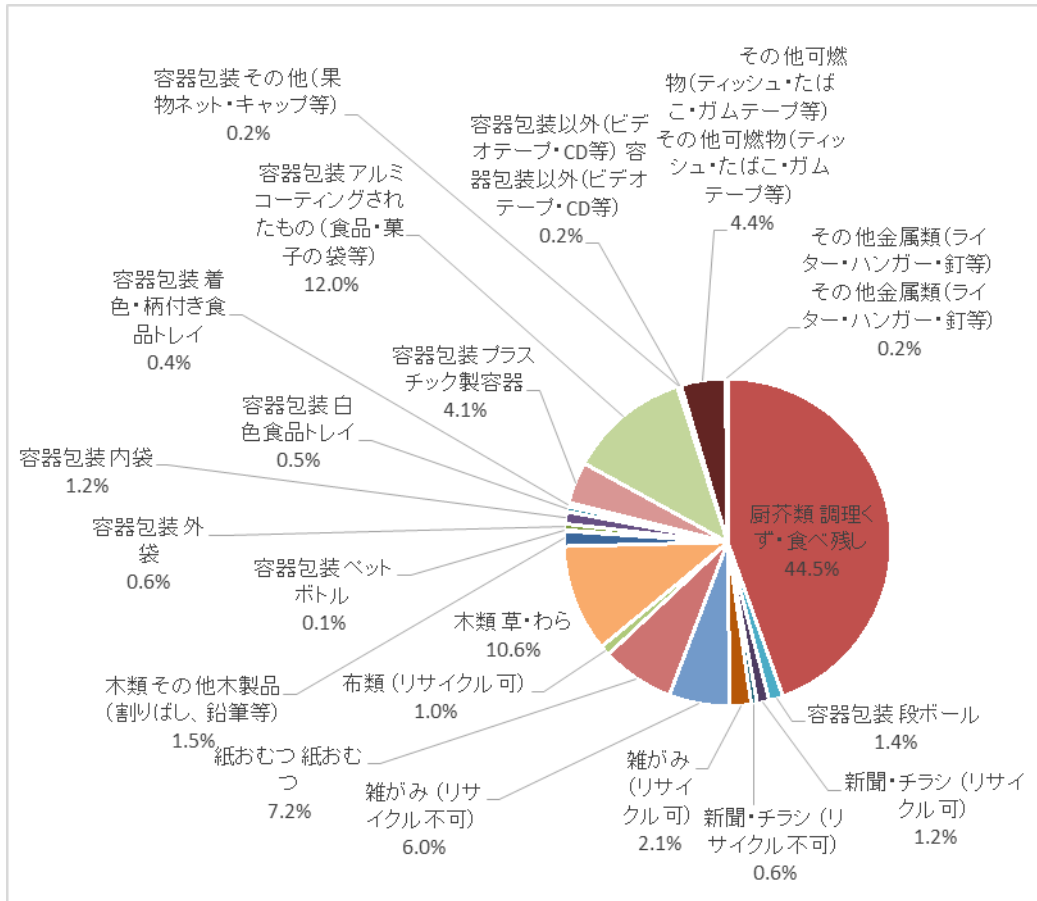
- 「紙類」は、8月実施分18.5%に対して9月実施分は27.3%と非常に高くなっている。このうち段ボールやリサイクル可能な古紙類が家庭系ごみのうち11.8%を占めていた。9月実施地域が商業地域付近であったことから、事業系ごみが混入した可能性も考えられるため、事業者に対する排出ルールの徹底指導を実施していく必要がある。
- 「厨芥類・調理くず・食べ残し」は、8月44.5%、9月45.5%と、青森県ごみ処理最適化事業における弘前市の生ごみ割合48%よりも低い値となっている。8月実施地域は分別等の意識が高い地域であったため、通常よりも水切りや発生抑制等が図られた可能性がある。また、9月実施分については、「厨芥類・調理くず・食べ残し」に含まれる「未使用」の割合が、家庭系ごみの7.9%を占めており、市民に対する3キリ運動（※）の普及啓発を図る必要がある。

※3キリ運動・・・食材を使い切る「使いキリ」、食べ残しをしない「食べキリ」、ごみを出す前に水を切る「水キリ」の3つの「キリ」に取り組む運動のこと。

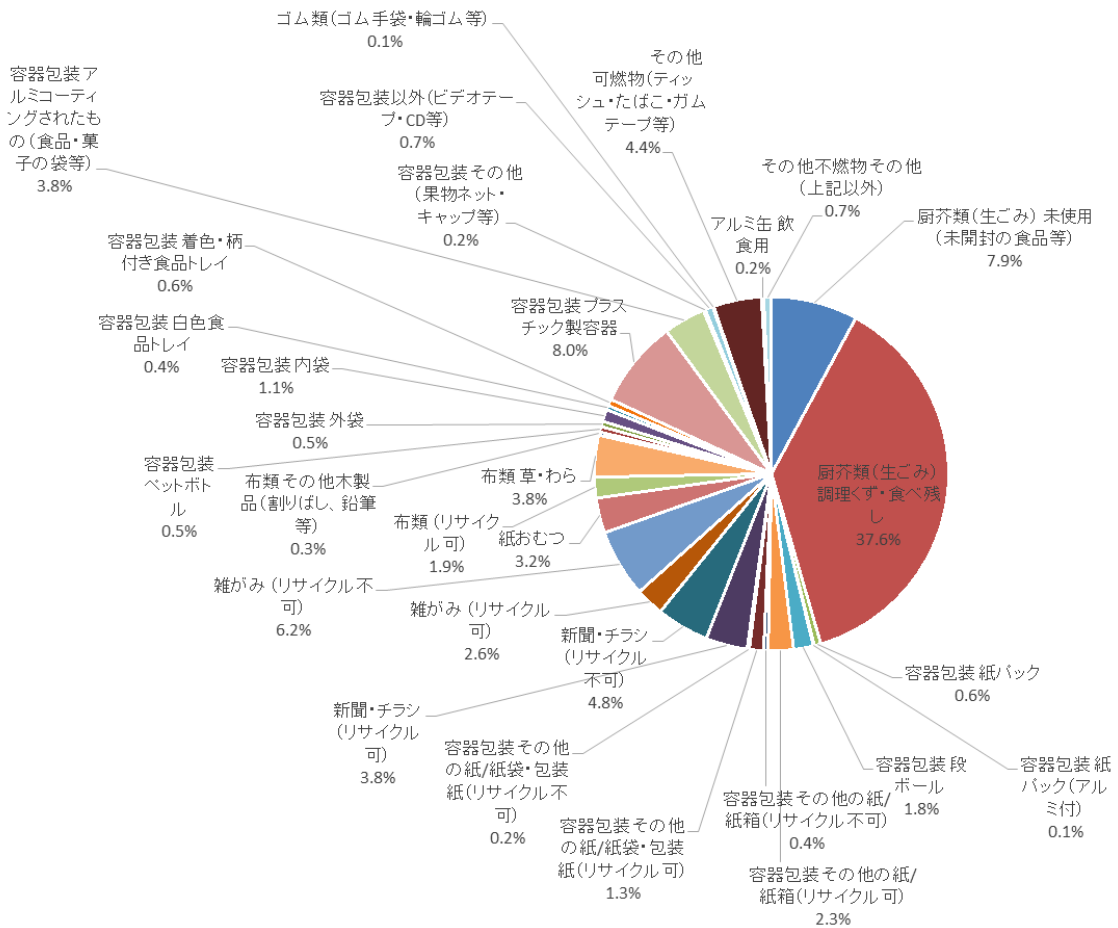
### 【事業系ごみ】

- 「紙類」は、8月実施分40%、9月実施分56.2%と非常に高くなっているが、可燃ごみに、段ボールやリサイクル可能な古紙類が多く混入している状況が確認された。特に8月実施分では段ボールが20.7%と非常に多い状況である（9月実施分は4.1%）。事業者に対して適正排出を促すためにも、受入制限を実施する必要があると考えられる。
- 8月実施分については、「布類」が41.0%と非常に高く、縫製加工業から出る布類の多さが要因であった。また、食品トレイや発泡スチロール等の産業廃棄物も数%混入されていた。
- 「木類」(14.4%)の割合が高く、特に「その他木製品（割りばし、鉛筆等）」の割合が高い(14.4%)。

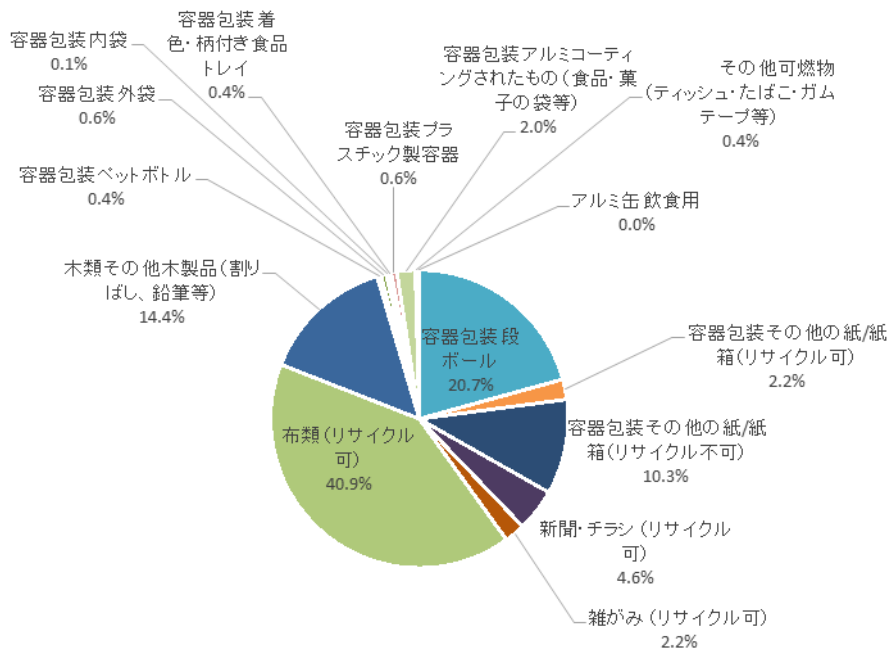
【家庭系・8月分】



【家庭系・9月分】



【事業系・8月分】



【事業系・9月分】

